

新学習指導要領に対応した簡単な単元計画の構造図

① 単元名		中学校 第2学年 保健分野「傷害の防止」		授業の計画の想定						評価規準、評価機会の想定		
② 指導内容の概要	③ 学習指導要領の内容	④ 学習指導要領解説の記載内容		⑤ 具体的指導項目	⑥ 発問や学習活動のイメージ	時間	授業展開のアイデア		教材	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
(ア)	(3)傷害の防止について理解を深めることができる。	交通事故や自然災害などによる傷害	交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因・環境要因及びそれらの相互のかわりによって発生すること。人的要因としては、人間の心身の状態や行動の仕方について、環境要因としては、生活環境における施設・設備の状態や気象状態などについて理解できるようにする。	○傷害はどんなことが原因で起こり、どうすれば防止できるかについて理解する。 ○具体的な場面で、どんな危険が潜んでいるか考える。	① <b>全体の死亡事故と10～14歳の死亡原因とを比べて、どんな違いがあるだろうか？</b> ②中学校での傷害は、どんなときに起こっているだろうか？ ③事例を見て、人的要因と環境要因をグループで分類する。 ④教科書「活用しよう」の例ではどのような危険が潜んでいるか考えよう。 ○本時の学習を通して学んだこと、日常生活に生かしたいことをまとめる。	1	10 20 30 40	前時の振り返りと本時の概要 発問 ① ②部活動、保健体育授業、休み時間に多いことを理解する。 傷害の種類や要因について理解し、整理・分類する。 ③グループを作り、事故の例示を要因ごとに整理する。 発問 ④ ④それぞれの要因の防止策を考え、発表する。 傷害の原因や予防についてまとめる。	教科書、ノート ワークシート(本時の内容に沿って作成したもの)	中学生の傷害の現状を知り、その原因と防止の学習に取り組もうとしている。	具体的な場面を設定した課題に取り組むことで、危険を予測するとともに、傷害を防止するための対策について考えることができる。	傷害は、人的要因、環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生することを言ったり書き出したりしている。
		交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。	交通事故などによる傷害を防止するためには、人的要因や環境要因にかかわる危険と予測し、それぞれの要因に対して適切な対策を行うことが必要であることを理解できるようにする。人的容認に対しては、心身の状態や周囲の状況を把握し、判断して、安全に行動すること、環境要因に対しては、環境を安全にするために、道路などの交通環境などの整備、改善をすることなどについて理解できるようにする。 その際、交通事故については、中学生期には自転車乗車中の事故が多発することを、具体的な事例などを適宜取り上げ理解できるようにする。また、交通事故を防止するためには、自転車や自動車の特性を知り、交通法規を守り、車両、道路、気象条件などの周囲の条項に応じ、安全に行動することが必要であることを理解できるようにする。 なお、指導に当たっては、必要に応じて、犯罪被害をはじめ身の回りの生活の危険が要因となって起こる傷害を適宜取り上げ、危険予測・危険回避の能力を身に付けることが必要であることを理解できるように配慮するものとする。	○中学生の交通事故の特徴と交通事故の発生原因について理解する。 ○交通事故の発生要因を事例を通して理解する。	① <b>中学生の交通事故にはどのような特徴があるだろうか？</b> ②中学生の交通事故の特徴について理解する。 ③ <b>自転車は道路交通法で車道と定められているが、違反して歩道を走行するとどうなるだろうか？</b> ④自転車の道路交通法について紹介する。 ⑤ <b>交通事故につながる危険な行動や状況について考えてみよう。また、なぜ危険なのか考えよう。</b> (着陸の生活の中から想像してみよう。ヒヤ/イ/ハット体験等) ⑥⑤の交通事故の原因となる行動や状況には人的要因・環境要因・車両要因があることを理解する。 ⑦実際の交通事故の事例を見て、人的要因・環境要因・車両要因を挙げてみよう。 ⑧自転車乗車中に注意すべきことについて考えよう。	2	10 20 30 40	前時の振り返りと本時の概要 発問 ① ②中学生の交通事故に繋がる危険な行動についてまとめる。 発問 ② ④自転車に乗るとの責任について考える 発問 ⑤ ⑥人的・環境・車両要因について理解する。 ⑦交通事故の事例から人的要因・環境要因・車両要因を考え発表する。 ⑧自転車乗車中に自分たちが気を付けるべきことについてまとめる。	教科書、ノート ワークシート(本時の内容に沿って作成したもの)	中学生の交通事故の特徴に関心を持っている。	交通事故の原因には人的要因、環境要因、車両要因があることを理解するとともに、事例を基に事故の発生要因について考えている。	中学生の交通事故がどんな時に多く、どのような行動が事故につながりやすいか言ったり書き出したりしている。
(イ)	(3)傷害の防止について理解を深めることができる。	交通事故や自然災害などによる傷害	交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因・環境要因及びそれらの相互のかわりによって発生すること。人的要因としては、人間の心身の状態や行動の仕方について、環境要因としては、生活環境における施設・設備の状態や気象状態などについて理解できるようにする。	○交通事故を防ぐための対策について理解する。 ○交通事故防止のための知識を役立てる。	① <b>教科書図のような場面を自転車で走るとき、どのようにしていますか。</b> ②交通事故に遭いやすい行動はどれかを選択肢から選択させ、理解する。 ③ <b>交通事故を防ぐためにはどんな行動が必要か。</b> ④危険予測に注目させ、どんな行動をとるか説明する。 ⑤ <b>それぞれの場面で、どんな危険が起こる可能性があるか、また、それを回避するためにどんな行動をとればよいか。</b> (いくつかの場面を提示し、グループ単位で考える。) ⑥グループで考えたことを発表する。 ⑦それぞれの場面でどのような行動をとればよいかまとめ、理解する。 ⑧交通事故を防ぐために交通環境が整えられていることを理解する。 ⑨自分たちにもできる自転車点検を身に付けよう。	3	10 20 30 40	前時の振り返りと本時の概要 発問 ① ②交通事故に遭いやすい行動を理解する。 発問 ② ④危険予測に注目させ、どのような行動をとるか説明する。 ⑥グループで考えたことを発表する。 ⑦危険を予測した上で、どのような行動をとるかまとめる。 ⑧交通環境が整えられていることを理解する。 ⑨普段からよく使用する自転車の点検方法を理解する。	教科書、ノート ワークシート(本時の内容に沿って作成したもの)	交通事故などによる傷害の防止について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	具体的な場面を設定した課題に取り組む、起こりうる事故について危険を予測している。 また、危険の予測に基づいて、どのように行動すれば安全なのか考えている。	交通事故の防止には、交通環境の整備とともに、車両の点検・整備も必要であることを言ったり書き出したりしている。
		交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。	交通事故などによる傷害を防止するためには、人的要因や環境要因にかかわる危険と予測し、それぞれの要因に対して適切な対策を行うことが必要であることを理解できるようにする。人的容認に対しては、心身の状態や周囲の状況を把握し、判断して、安全に行動すること、環境要因に対しては、環境を安全にするために、道路などの交通環境などの整備、改善をすることなどについて理解できるようにする。 その際、交通事故については、中学生期には自転車乗車中の事故が多発することを、具体的な事例などを適宜取り上げ理解できるようにする。また、交通事故を防止するためには、自転車や自動車の特性を知り、交通法規を守り、車両、道路、気象条件などの周囲の条項に応じ、安全に行動することが必要であることを理解できるようにする。 なお、指導に当たっては、必要に応じて、犯罪被害をはじめ身の回りの生活の危険が要因となって起こる傷害を適宜取り上げ、危険予測・危険回避の能力を身に付けることが必要であることを理解できるように配慮するものとする。	① <b>中学生と小学生では、犯罪被害にどのような違いがあるのだろうか？</b> ② <b>犯罪が起こりやすいのはどのような場所や場面だろうか？</b> ③ <b>犯罪被害を防ぐためにどんなことが行われているか？</b> ④教科書の場面絵を見て、どのような危険があるだろうか？また、その危険を回避するためにはどうすればよいかグループで考えよう。	① <b>中学生と小学生では、犯罪被害にどのような違いがあるのだろうか？</b> ② <b>犯罪が起こりやすいのはどのような場所や場面だろうか？</b> ③ <b>犯罪被害を防ぐためにどんなことが行われているか？</b> ④教科書の場面絵を見て、どのような危険があるだろうか？また、その危険を回避するためにはどうすればよいかグループで考えよう。	4	10 20 30 40	前時の振り返りと本時の概要 発問 ① 中学生と小学生の犯罪被害の違いについて理解する。 発問 ② 犯罪が起こりやすい場所や場所について理解する。 発問 ③ 犯罪被害を防止するための地域や行政、民間の活動について理解する。 発問 ④ グループで考えたことを発表する。	教科書、ノート ワークシート(本時の内容に沿って作成したもの)	犯罪被害がおこりやすい場所や場面について理解している。	危険の予測に基づいて、どのように行動すれば安全なのか考えている。	犯罪被害の防止には、安全を守るための環境の整備や取り組みも必要であることを言ったり書き出したりしている。
⑥ 内容の取扱い				教師の働きかけ						押えるべき知識の例	知識を活用する学習活動例	